



題字 井口 文章
再刊 第248号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2017

みんなでつくる
錦城高校新聞

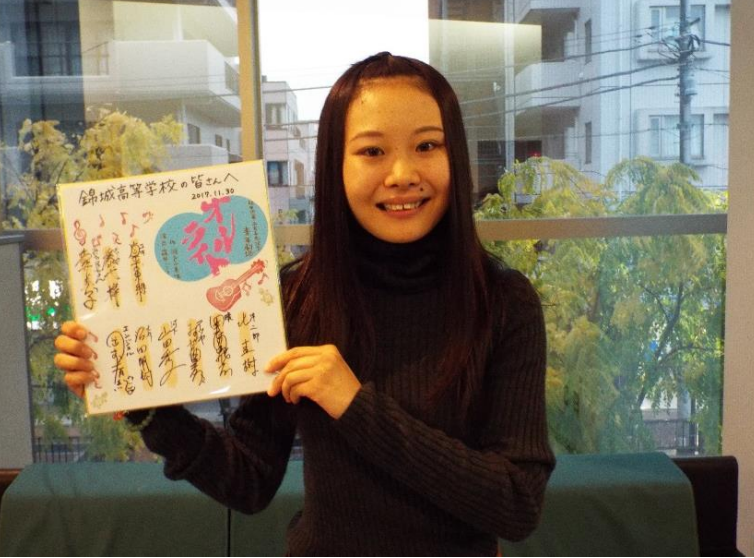
一面「オールライト」観劇
スキーしおり係とPR係に話を聞く
二面：新生徒会の意気込み聴く座談会
生徒百人にインタビュー

自分でやると決めたから「オールライト！」

1・2年生視聴覚教室

11月30日(木)ルネこだいらで視聴覚教室が開かれ、1・2年生は、青年劇場による演劇「オールライト」を観劇した。コミカルな物語に生徒は惹きつけられていた。公演後、主人公「ユキ」を演じた片平貴緑さんと演出家で元錦城生28回生の藤井ごうさんに話を聞いた。

見送り、大好きなレコードを聴きながら、ドキドキの一人暮らしが始まる……かと思いきや、家出してきた幼馴染のユキ。東京に単身赴任する父をエリカが転がり込んでくる。



公演記念に錦城へ送ってくれた出演者全員のサインと主役の片平さん

勝手に居候を宣言して、お泊り気分ではしゃぐエリカと途方に暮れるユキ。そこに、道端で倒れていた記憶喪失のお婆ちゃん、そしてお婆ちゃんに連れてきた照明写真機の中で寝ていたサラリーマンやスパーの屋上でたまたまでいた妊婦など「ちよつと変な大人たち」も加わり、ユキの家では奇妙な共同生活が送られていく。

「演劇は生もの」

ユキ役の片平貴緑さんに舞台を終えての感想を聞く。「客席と舞台が一体となっていて楽しかった」といって、青年劇場は芸術鑑賞教室などで全国各地を回っている。公演をした高校によって雰囲気が違うという。「演劇は生もので観客の雰囲気によって演技も変わります」と片平さん。以前には観客がキャラクターを受け入れず、ユキがエリカを平手打ち

生徒が企画！三年生運動会

11月29日(水)のLHRに三年生全クラスで校庭を使い運動会が行われた。競技はアンケートで決定した玉入れと全員リレーの2つだ。

男子ハンドつき玉入れは、玉が新聞紙で作られているので軽く、カゴに入れるのに苦戦したが、競技中終始楽しそうに声を響かせていた。結果は一位I組、二位G組、三位J組、四位F組、三位G組となった。



玉入れを楽しむ3年生の女子たち

室楽、地元のコンサートに参加

12月10日(日)にガスマジウムで行われたクリスマスコンサートinガスマジウムに室内楽部が参加した。有志の部員14人で約60人の観客が来場した。



小平の子供たちとも共演した室内楽部

「20日のクリコンにもぜひ来てね!」と部長の山本さん

今回は指揮者なしでの演奏のため、指揮者の代わりとなるバイオリンのトップの人を見るようにクセをつけたという。部長の山本真奈未さん(2H)は「1番心配していた3曲目では1、2曲目よりもお客さんの反応があっただけよかった」と話した。(英)

●吹奏楽部 Xmas CONCERT

12月19日(火)ルネこだいら大ホール
開場：17:30 開演：18:00

今年は吹部からのプレゼント企画があるかも!?

クリスマスコンサート

●室内楽部 クリスマスコンサート

12月20日(水)ルネこだいら中ホール
開場：18:00 開演：18:30
サンタに会える!?

バスケット部から選抜選考会出場

11月23日(木)に行われた支部対抗選抜第4支部代表選手選考会に男子バスケットボール部の清家直音くん(2C)が出場することになった。ここで代表選手に選ばれると2月11日(日)に開催される第20回支部対抗選抜バスケットボール大会で第4支部代表としてプレーできる。清家くんは「正直びっくりしています。まさか選ばれるとは思っていませんでした」と心境を明かした。もし支部代表に選ばれたら「支部の大会で得たものをチームに持ち帰ってこれからの練習に活かしたいです」と話した。最後に「選ばれたのもチームで協力して新人戦を勝ち進んだことが大きいので、とても感謝しています」とチームの全員にお礼を伝えた。(紅)



「選ばれたのはチームのおかげです」と清家くん

修学旅行の準備着々と進む

「普段の学校生活でできないことを」

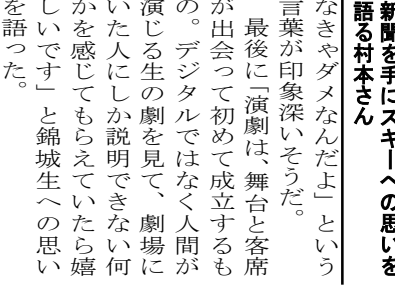
スキーPR係チーム スキーのPRについてチームの村本夏望さん(2A)に話を聞いた。PR係はスキー新聞を発行している。基本は2人1組で1枚の新聞を担当している。他にもインストラクターの方や贈るTシャツのデザインや募集などをしたそう。村本さんは「スキーが上達したかどうかではなく、とにかくどうにかして欲しい」と話した。今後はさらに新聞の発行を続けて、他のスキーの係や部活との合同企画も構想しているという。村本さんは「3年生と先生方にはアンケートに協力してもらったし、1年生にページ、心理チャートやそのほかの修学旅行を楽しみにするなどのページがあると思う。全員で楽しめるスキーになればいいと思います」と話した。お祈り係チーム スキーのお祈り係のチームである古内菜那子さん(2H)は「それぞれが担当しているページは完成しました」と話した。



新聞を手にとるスキーへの思いを語る村本さん

演出家は元錦城生

今回の作品の演出家、藤井ごうさんは元錦城生だ。『オールライト』を通じて伝えたかったことを聞くと「逆にあなたたちはどんなことを感じましたか」と笑顔で尋ねられた。「伝わることは、見る人の持つものによって変わって来ると思う。いろんな人からいろんな角度で見て欲しい」と話した。藤井さんは男子校時代の生徒だったため、今の錦城に女子がいるのが新鮮だという。梶原政利先生の「自分でやら



「皆さんはどんなことを感じましたか?」と藤井さん

むらさき草

テストも終わり、年末へ向かい加速度をつける日々、小学6年生の頃演じた「モモと時間泥棒」が思い出される。この劇はミヒヤエル・エンデルの児童文学『モモ』が原作だ。主人公モモはおだやかな時間の流れる町で、のんびりと暮らしていた。しかしある日、町にあらわれた時間泥棒の外交員を名乗る灰色の男達「時間泥棒」に、町の人々の時間を奪われていってしまう。時間を奪われた人々は、ムダを嫌い、友達と語りあう楽しさも、ペットの可愛さも忘れてしまう。モモは時間と友達を取り戻すため、時間泥棒との戦いにのり出す。原作は三部構成からなり、第一部に時間泥棒は登場しない。モモと友達と遊ぶ様子や、町の人の喧嘩など日常が描かれる。小学生のときはこの部分を「不要部分」と思っていたが、今読み返すと「ほんとに気が付く。長々と描かれたからこそ、奪われた後にその日常のありがたさを噛みしめることができる」と吉田兼好の随筆「徒然草」55段。「造作は、よなき所を作りたる、見るも面白く、万の用にも立ちよとぞ、人の定め合ひ侍りし。つまり家には特に用もない空間を作っておくと良いそうだ。錦城高校の新校舎を作る時、この言葉を意識して各階にコモンスペースを設けたと聞く。一見必要のなさそうなその場所、今日もお弁当を食べる生徒の笑い声が、時には自習をする生徒のペンのノートを滑る音が響いている。意味の無いように見えるスペースで交わされる会話や、過ぎた時間が大切な思い出になったりもする。兼好法師も走っていたかもしれない師走の日々。とはいえず忙しいからと「ムダ」に思えるものを切り捨て、せかせかと過ごすのではなく、思い思いのペースで、澄んだ夜空に遠く輝く月を眺めたり。そんな心の余裕を持ちたい。(加)